

ヨセフ③ 復活信仰の継承

□ヨセフの信仰の手本

信仰によって、ヨセフは臨終のときに、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骸について指示を与えました。(ヘブル 11:22)

1. ヨセフ 奴隷に売られる
 - ヨセフは、ヤコブの12人の息子たちのひとり、11番目の息子
 - 父ヤコブはヨセフを愛したので、兄たちはヨハネを憎んだ。
 - ヨセフは、兄たちが自分にひれ伏す夢を見た。その夢の内容を兄たちに話したことがきっかけとなって、兄たちに殺されそうになる。死は免れたが、奴隷に売り飛ばされてしまった。17歳
2. ヨセフ エジプトの高官の家にて
 - ヨセフは、エジプトの高官の家の奴隷となったが、「成功する者」となった。
 - 高官の妻から言い寄られ続けたが拒んだために、濡れ衣を着せられて監獄へ。
3. ヨセフ 監獄にて
 - 監獄でいっしょになった囚人の夢を、ヨセフは解き明かした。その後で、その囚人は赦されて釈放され、王の献酌官長の職務に戻った。
4. ヨセフ 宰相となる
 - それから2年後、王が夢を見たときに解き明かす者がなく、王が悩んでいたときに、献酌官長がヨセフを王に推薦した。
 - 王の前に呼び出されたヨセフは、王の夢を解き明かし、その対策を進言した。王はヨセフにその対策を実行する全権を付与し、エジプトで王に次ぐ第二の地位を与えた。今で言えば、宰相、総理大臣のような地位。30歳。
5. 兄たちとの再会、そして家族のエジプト移住
 - カナンの地が飢饉に見舞われたとき、兄たちは、ヨセフが宰相になっているとも知らずに、食糧を買いにエジプトへ来た。
 - 紆余曲折を経て、ヤコブとその家族はヨセフを頼ってエジプトに移住した。ヤコブは130歳、ヨセフは40歳。
 - ヤコブは、ヨセフの二人の子を自分の養子とすることで、ヨセフを祝福した。
6. ヤコブの死
 - ヤコブは147歳のときに死去。ヨセフと兄弟たちは、エジプト軍の護衛を伴い、ヤコブの遺骸をカナンの地に運び、【アブラハムの妻サラ、アブラハム、イサクの妻リベカ、イサク、ヤコブの妻レア】が葬られていた墓に、ヤコブの遺骸を葬った。そして、ヨセフと兄弟たちは、エジプトに戻った。ヨセフ57歳。

7. ヨセフの死

- ヨセフは110歳、臨終のとき。ヨセフはすでに公職を退いて久しい。エジプトの王はヨセフの貢献など考慮しない王に代わっていた。
- イスラエルの子らは、エジプトで奴隷状態に陥っていた。
- ヨセフの遺骸を、エジプトを出国してカナンの地の墓に運ぶことは許されないことは明白であった。ヨセフの臨終の遺言はつぎのとおり。

私は間もなく死にます。しかし、神は必ずあなたがたを顧みて、あなたがたをこの地から、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地へ上らせてくださいます。神は必ずあなたがたを顧みてくださいます。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上げてください。(創世記 50:24~25)

これは、ヨセフの臨終のときからは275年前に曾祖父アブラハムに告げられた「解放の預言」(創 15:13~16)の成就を信じ、そして、復活を信じる信仰表明である。

□本日の内容 復活信仰の継承

1. 兄弟との再会(創世記 42章~45章)

- (1) 42章 兄たち、食糧を買いにエジプトに来る【第1回目】
- (2) 43章 兄たち、弟ベニヤミンを連れてエジプトに来る【第2回目】
- (3) 44章 兄のユダが、弟ベニヤミンの身代わりとなることを申し出る
- (4) 45章 ヨセフが兄弟たちに自分を明かし、家族を呼び寄せる
 - ① 1~15節 ヨセフが兄弟たちに自分を明かす。このとき、飢饉の2年目。飢饉はさらに5年続くはずなので、家族をエジプトに招く。
 - ② 16~20節 エジプト王からの招き
 - ③ 21~28節 兄弟たちはカナンの地に戻り、父ヤコブに報告した。

26~28節 彼らは父に告げた。「ヨセフはまだ生きています。しかも、エジプト全土を支配しているのは彼です。」父はぼうぜんとしていた。彼らのことばが信じられなかったからである。彼らは、ヨセフが話したことを残らず彼に話して聞かせた。ヨセフが自分を乗せるために送ってくれた車を見ると、父ヤコブは元気づいた。イスラエルは言った。「十分だ。息子のヨセフがまだ生きているとは。私は死ぬ前に彼に会いに行こう。」

2. ヤコブは家族とともに、エジプトへ(創世記 46章~47章)

- (1) 46章 エジプトへ
 - ① 1~5節 途中のベエル・シェバで、神が夜の幻の中でヤコブに語った
 - ② 6~27節 ヤコブの家族70人の名簿

- ③ 28節～34節 エジプトの中のゴシェンの地に到着。ヨセフとの再会
- (2) 47章 エジプトにて
- ① 1～10節 ヨセフは、エジプト王に家族到着の報告。王の前に立つ5人の兄弟、次いで父ヤコブ。このとき、ヤコブは130歳、ヨセフ40歳。
- ② 11～12節 ゴシェンの地の中の、最も良い地であるラメセスに住む。これは、エジプト王の命令による(6、11節)。ヨセフは家族に食物を与えた。
- ③ 13～26節 飢饉の年が続く中で、ヨセフによるエジプト統治
- ④ 27～31節 ヤコブのエジプト寄留についての総括と遺言
- さて、イスラエルはエジプトの地でゴシェンの地に住んだ。彼らはそこに所有地を得て、多くの子を生み、大いに数を増やした。ヤコブはエジプトの地で17年生きた。ヤコブが生きた年月は147年であった。
- イスラエルに死ぬ日が近づいたとき、彼はその子ヨセフを呼び寄せて言った。「もしおまえの心にかなうなら、おまえの手を私のももの下に入れ、私に愛と真実を尽くしてくれ。私をエジプトの地には葬らないでほしい。私が先祖とともに眠りについたら、エジプトから運び出して、先祖の墓に葬ってくれ。」ヨセフは言った。「必ずあなたの言われたとおりにいたします。」
- イスラエルは言った。「私に誓ってくれ。」ヨセフは彼に誓った。イスラエルは寝床の枕もとで、ひれ伏した。
3. ヤコブはヨセフの二人の子、エフライムとマナセを自分の養子に(創世記48章)
- (1) 1～2節 病床のヤコブのもとに、ヨセフが二人の子を連れて来た。
- イスラエルは力を振り絞って床の上に座った。
- (2) 3～7節 ヤコブは、ヨセフの二人の子を自分の養子とすると言った。
- ① 5節 おまえの二人の子は、今、私の子とする。
- エフライムとマナセは、
 - ルベンとシメオンと同じように、私の子となる。
- ルベンとシメオンは、ヤコブの第1子と第2子。その同じ位置に孫のエフライムとマナセが立つ。
- ヨセフの二人の子のうち長子はマナセ。しかし、ここで立場は逆転して、エフライムがヤコブの第1子の位置につく。
- ② 6節 ヨセフがあとから生む子たちは、エフライム族かマナセ族に帰属する。「ヨセフ族」はつぐらならない。ヨセフの妻はエジプト人(41:50)。長子の権利は、ヨセフ本人ではなく、エフライムに。しかし、ヨセフから出た二人の子がそれぞれ部族となって、約束の地を受け継ぐので、他の兄弟よりも2倍の相続となる。まさに、ヨセフは長子の祝福を受ける。

(3) 8～14節 祝福の準備

- ① 13節 ヨセフは自分の右手にエフライム、自分の左手に長子マナセを取って、対面している父の前に近寄らせる。父がそのまま手を伸ばせば、父の右手は長子マナセに、父の左手はエフライムの上に置かれる。
- ② 14節 しかし、イスラエルは手を交差して伸ばし、右手をエフライムの頭の上に、左手をマナセの頭の上に置いた。

(4) 15～16節 ヤコブが、エフライムとマナセを祝福した

- ① 15節 「ヨセフを祝福して言った」 二人の子を祝福するということは、その父親であるヨセフを祝福することである。
- ② 15節 「私の先祖アブラハムとイサクが、その御前に歩んだ神よ。きょうのこの日まで、ずっと私の羊飼いであられた神よ」 まず、アブラハム契約に焦点をあてる。そして、ヤコブは、幾多の逆境があったが、自分の人生全体が神の支配の中にあつたことを認めている。
- ③ 16節 「すべてのわざわいから私を贖われた御使い」 次にヤコブは、第二位格の神、主の使いに焦点をあてる。主の使いと「贖い」とを関係させて表現する聖書での最初の箇所。
- ④ 16節 「この子どもたちを祝福してくださいように。私の名が彼らのうちに受け継がれますように、先祖アブラハムとイサクの名とともに」
 - 私の名が彼らのうちに受け継がれる＝二人の子がヤコブの養子となる
 - 先祖アブラハムとイサクの名とともに＝アブラハム・イサク・ヤコブの子孫であるイスラエル民族を構成する部族となる（エフライム族とマナセ族）
- ⑤ 16節 「また、彼らが地のただ中で、豊かに増えますように」

(5) 17～19節 ヨセフの反応とヤコブの応答

- ① ヨセフ：父の右手を、エフライムの頭からマナセの頭へ移そうとした。父ヤコブが、孫二人の兄と弟の順を間違えているのでは、と思った。
- ② ヤコブ：間違いではない。これでよい。弟エフライムは兄マナセよりも大きくなる。

(6) 20節 二人の子への祝福のことばに続き、「あなた」と呼ぶ誰かを祝福した

- ① 原文をその語順のまま訳すと・・・
彼は、彼ら（エフライムとマナセ）を祝福した、その日に。
アマル【言った】、あなたの中であつて、祝福するであろう、イスラエルは。
アマル【言った】、あなたをしてくださるように、神が、エフライムのように、マナセのように。

- ② アマル【言った】に続いて、2つ語られる。
- 一つ目：祝福するのは、イスラエル=ヤコブ。その時は、将来のこと。その場所は、「あなたの中であって」
 - 二つ目：祝福のことば。神が『あなた』をエフライムのようにマナセのように繁栄させてくださるように」。ここで祝福を受けている『あなた』が誰かは特定されていない。
- ③ 一つ目の「祝福するであろう」は、未来形。二つ目の祝福の内容は、エフライムとマナセの繁栄が将来において実現していることが前提。よって、ヤコブが「あなた」と呼んでいる誰かを祝福するのは、将来のことである。
- ④ **「あなた」とは誰か？**
- エフライムやマナセではない。ヨセフでもない。「神があなたをエフライムやマナセのようになさるよう」と言っているので、イスラエルの子孫であり、将来、約束の地で神からの割り当て地を受ける人物である。
 - ヤコブは、将来、復活し、約束の地の上に立つ。そこは、イスラエルの子孫が神から受け取るメシアの王国である。「あなたの中であって」とは、そのメシアの王国に立っていることを示す。
 - ヤコブは、16節で「すべてのわざわいから私を贖われた御使い」と言っている。この「御使い」を15節では「神」と呼び、16節では「御使い」と呼んでいる。この御使いは、第二位格の神である。
 - 第二位格の神は、人となり、メシアとなられ、メシア王国の王となる。ヤコブ自身にはまだそこまでの啓示はないが、ヤコブは自分が復活してメシア王国で約束の地に立っている日のことを預言している。そして、イスラエルの子孫である「あなた」を神が豊かに祝福してくださるようにと、祝福のことばを述べるであろうと預言している。
 - 「あなた」とは、**メシア**である。
 - ヤコブの目はほとんど見えず、力をふりしぼって床にすわるような状況の中で、彼は復活して約束の地に立つ日を望み見ていた。アブラハムとイサクの復活信仰は、確かにヤコブに継承された。
 - 今回は、この復活信仰がさらにヨセフに受け継がれたことを見る。

□ヤコブが、自分を必ず先祖の墓に葬るようにヨセフに頼んだのは、どうしてでしょうか。

□ヤコブは、息子のヨセフを呼び寄せたとき、病床の枕もとでひれ伏しました。ヤコブは、誰に向かってひれ伏したのでしょうか。